

校是「自主・自立」のあくなき追求 「前進 ～未来を切り拓く～」

1 教育目標

本校は、平成22年に旧赤湯中学校と旧中川中学校の歴史と伝統を統合し、新生赤湯中学校として出立の帆を上げて、今年度で15年目を迎えた。

今年度も、本校開校以来の校是「自主・自立」を追求し、「自主・自立」の学校を創り、下記にあげるような「自主・自立」の生徒を育てることを教育目標とする。

《校 是》 「自主・自立」

《教育目標》

- | | |
|----------------------|---------|
| ◎ 自ら考え、進んでやり遂げる生徒 | (自主・自律) |
| ◎ 真剣に学び、深く追求する生徒 | (真理・探究) |
| ◎ 心豊かで思いやりのある生徒 | (友愛・協力) |
| ◎ 心と体を鍛え、ねばり強くやりぬく生徒 | (鍛錬・不屈) |

2 経営の理念

(1) 公教育の基本を踏まえた経営

○憲法以下の教育関係法規に則り、教育の目的である人格の完成と国家・社会の形成者を育成するという使命感・責任感を持つ。

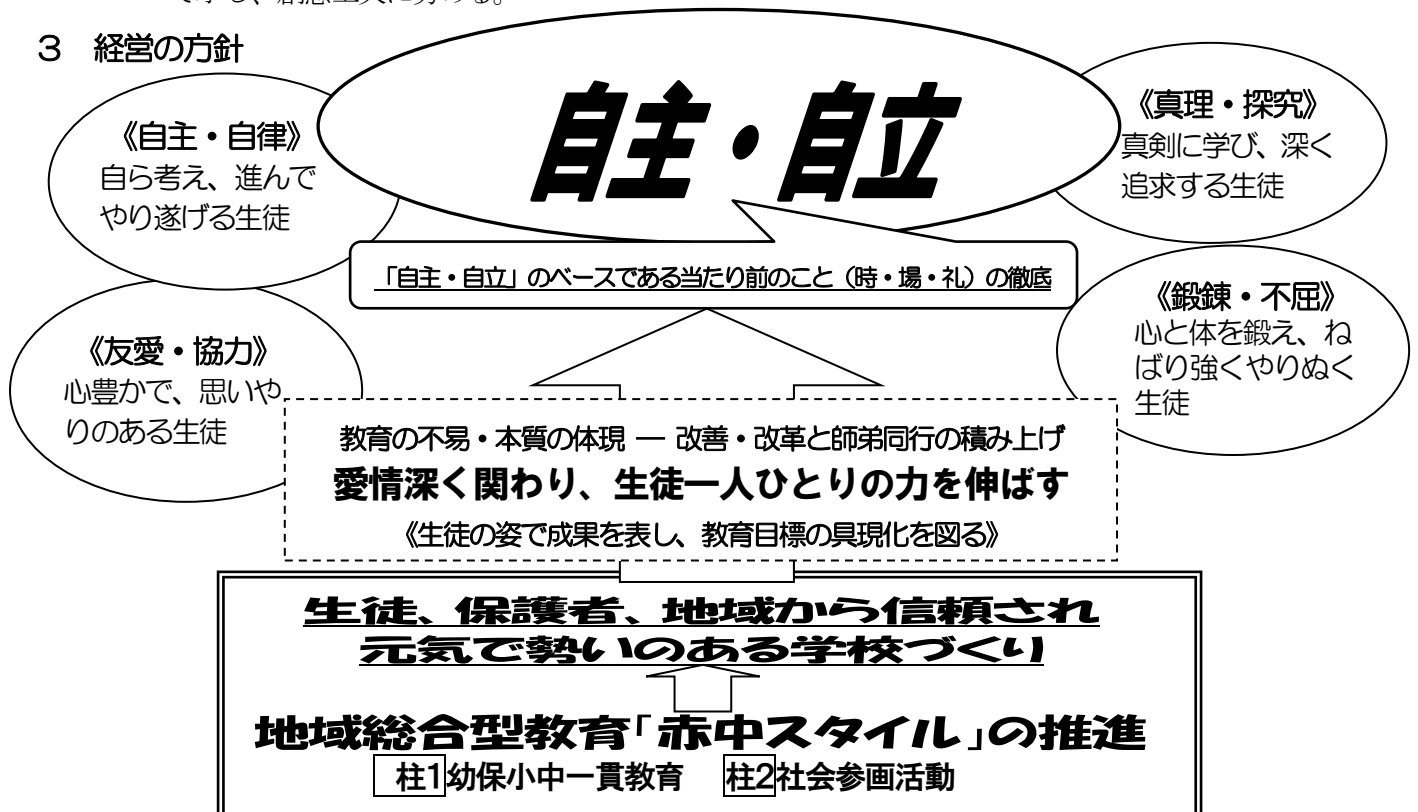
(2) 生徒の全人的発達を支える経営

○生徒の知徳体がバランスよく調和し、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培う。

(3) 教職員の英知を結集した経営

○日々改善改革の意識を持ち、研究と修養に努め、率先垂範、有言実行を教師自らの言葉と行動で示し、創意工夫に努める。

3 経営の方針



4 経営の重点

全職員が教育理念や経営の理念を共有し、協力と協働の原則の下、思いを一つにして全教育活動の中で機能する指導体制を確立し、「幼保小中一貫教育」と「社会参画活動」を柱とする「地域総合型教育（赤中スタイル）」を推進して、信頼され元気で勢いのある学校づくりに努め、生徒の姿として、教育目標の具現化を図る。

生徒一人ひとりに、自ら考え、判断し、実践する「自主・自立」の力を身につけさせ、「自主・自立」の生徒を育てるため、「学力向上」を中核に据え、「生徒指導の充実」「校内研究の充実」「進路指導の充実」「開かれた学校づくり」「体力・気力の向上」「危機管理体制の整備と展開」を相互にスパイラル化した教育を展開する。そして、教育活動を通して赤湯中学校の生徒であることに自信と誇りを持たせる。

コロナ禍を経験したからこそその判断や価値観を發揮しながら、より質の高い効果的な教育活動を展開する。

(1) 地域総合型教育の推進（赤中スタイル「安全・挨拶・元気の発信」の確立）

- ① 「第六次南陽市教育振興計画」の趣旨を踏まえた「地域総合型教育“赤中スタイル”」の推進～高い志を持って、自立的に生きる人材の育成を目指して～
- ② 柱1「幼保小中一貫教育」の充実・深化
 - 赤湯中学校区における3校合同での校内研究（授業づくり）を推進し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。
 - 赤湯中学校区3校の児童生徒の交流活動（応援クラスマッチ・Eサポート学習会・赤中体育祭など）を充実させる。
- ③ 柱2「社会参画活動」の充実・深化
 - 全校生による交通安全推進活動（交通安全ありがとう運動）を進展する。
 - 元気を発信する「赤中五本柱」を実践する。（ふるさと祭り、地区運動会への参画）
 - 安心安全な町づくりの担い手として参画しつつ、あいさつ運動を強化する。（赤湯生き方まっすぐネットワークの取り組み）

(2) 学力向上に努める ※経営の重点の最重要課題

教育の根幹を成すのは個々の「確かな学力」の育成に他ならない。自らの人生をよりよく生きるために、学力の大切さを一人一人に自覚させ、共に努力し学びを追求する。そして、習得した学力を生かし、教育活動や学校・家庭生活全般におけるよりよい判断や行動・実践につなげていきたい。

- ① 確かな学力を育む授業の創造（授業を中核とした学校運営の推進）
 - 「思考力」・「判断力」・「表現力」を相互関連して伸びるものと捉えながら、集団及び一人ひとりにおいて「考える力を育む」ことを授業の核として、授業づくりにあたる。
 - 赤湯中学校区の小学校と連携を図りながら、探究型学習を推進する。
- ② 個に応じた実効的な指導の工夫
 - 何を足掛りにし拠り所にして、また何を伸ばすのか、個に応じて現実的に指導する。
- ③ ICT教育の推進
 - タブレット端末の有効活用を推進し、個の確かな学びにつなぐICT教育の充実を図る。
- ④ 家庭学習の自立化
 - 家庭学習のあり方を工夫・具体化し、一人ひとりが自分の学習状況や個性・特性に応じて学力向上を図れるようにする。家庭学習＝宿題＝授業の補完、という概念にとらわれずに、家庭学習における学習の自立化を目指す。
 - 自分の学習課題に自ら気付き、自ら学習に取り組めるような「学習の仕方」を個に応じてスキルアップさせていく。
- ⑤ 学習環境の創造と活用
 - 「学力向上」をテーマにした掲示物の効用による、教室環境・廊下環境等を創造する。
 - 一日読書の日、全校話し合い活動等を活用する。
- ⑥ 生徒会活動における学力向上の実践化
 - 学習に係る全校集会を工夫する。
 - 学芸委員会等による生徒主体の学力向上への取り組みを行う。
- ⑦ 師弟同行による授業改善の推進
 - 改善の視点を明確化し、校内授業研究会で検証していく。
 - 授業は教師と生徒が共に創る。（事後研究会 指導者の熱意と思い）
 - 「コグトレ」「さがし算」を取り入れ、総合的な学力を高めていく。

(3) 生徒指導の充実

- ① 教育活動全体に機能する生徒指導体制の強化
 - 生徒指導共有化会議、生徒指導行動指針を意識した指導の充実徹底を図る。
 - 自己指導力と自治能力、自浄能力を育成するために、各分掌間の連携を強化する。
 - 生徒指導の機能（自己決定、自己存在感、共感的人間関係）を生かした指導を展開する。
- ② 「我ら赤中生き方まっすぐ宣言」を核にした生徒会活動の創造、展開
- ③ 自己肯定感を抛り所に自己内省を深め、問題の自力解決へと導く教育相談の充実
 - グループ日誌や困りごと相談、QUテストを活用する。
 - 生徒一人ひとりの心に響く対話や関わりの積み上げを実践する。
- ④ いじめ、不登校に関わる指導の充実、強化、未然防止の体現
 - 教職員相互の複眼的な見立てとチームによる生徒や保護者への関わりを重視する。
 - 「いじめ防止対策委員会」の活性化を図る。
- ⑤ 共感と洞察力のある生徒理解と指導・支援の充実深化
 - 生徒のありようにおける、「視えざるものを見る力」「価値付ける力」を自覚的に鍛えていく。
- ⑥ 話し合い活動の充実・推進
 - 「全校話し合い活動」や学級での話し合い活動、班長会での対話や議論を豊かに展開させ、自覚納得のある自治活動を重視し、相互理解や自己指導力の育みに繋げる。「自分」の視点ではなく「自分たち」の視点で実践する。

(4) 校内研究の充実

- ① 赤湯中学校区における幼保小中一貫教育と連携・連動した研究の推進
- ② 南陽市の教育の充実・発展への指針となる研究の推進
- ③ 生徒の「生きぬく力」を伸長・強化する研究の推進

(5) 進路指導の充実

- ① キャリア教育の推進
 - 職業能力の育成、望ましい勤労観・職業観の育成、職場体験学習の実施を図る。
- ② 生き方、在り方指導の充実
 - 啓発的経験を生かした進路指導と進路相談、望ましい公民、職業人としての自立を促す生き方の学習を実践する。
- ③ 地域社会との直接的な関わりを通じた社会性・愛郷心を育む。
- ④ 教育相談（対話）の充実による個に応じた進路指導・進学指導の充実を図る。

(6) 開かれた学校づくりの推進

- ① 学校だより、学年・学級だより、ホームページ等による日常的な情報発信
- ② 授業参観やオープンスクール（学校開放日・週間）の実施
- ③ 学校運営協議会（赤湯中学校の教育を語る会）の充実及び連動した学校評価の充実

(7) 体力・気力の向上

- ① 教科体育の充実と部活動の重視
 - 全校トレーニング活動（走運動）など、全校挙げての体力・耐力づくりを推進する。
- ② 各種行事における心身の躍動を通じた、豊かな感動の体感と心身の耐性の育み
- ③ 健康教育の重視・充実、特に健康管理・体力づくりへの主体的な自覚化と行動

(8) 危機管理体制の整備、展開

- ① 諸問題の未然防止を根幹にした現実的な危機管理の行動化
- ② 生徒における主体的な危険予知能力、危機回避能力の育成
- ③ 日常の安全点検と有事に対応できる体制づくり
 - あらゆる事故、災害を想定した危機管理マニュアルの作成と点検を実施する。
 - 非常災害・事故に備えた実地訓練を実施する。
- ④ 関係機関と連携した管理体制の強化
- ⑤ 不条理犯罪等、サイバー犯罪等の今日的な事件や犯罪に対応する学習の推進
- ⑥ 地域・保護者と一体となった計画的、継続的な情報モラル教育の徹底（SNS、フェイスブック、ライン等）